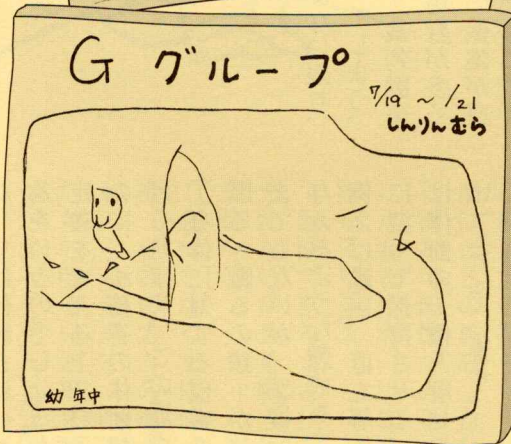
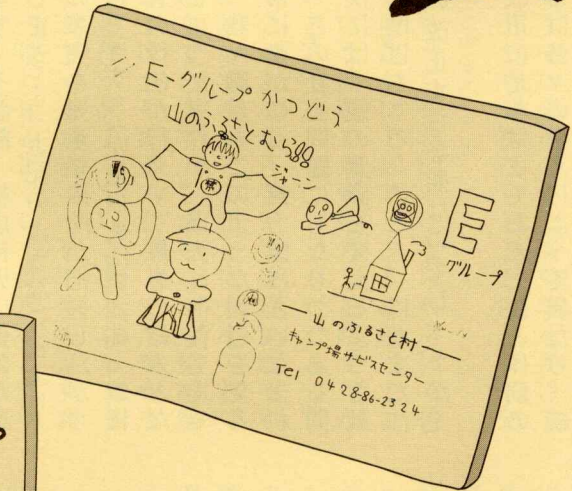
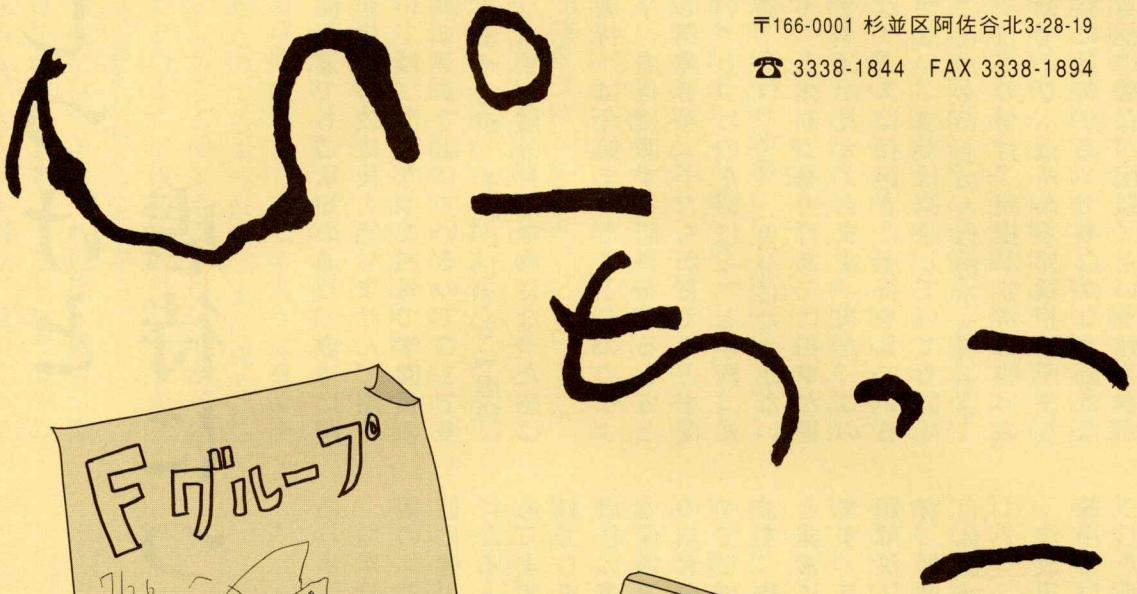


発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
 聖友学園 (児童養護施設)  
 〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19  
 ☎ 3338-1844 FAX 3338-1894



夏休みに行われた  
 グループ活動の表  
 紙より

目次 ●しつけと虐待について ..... 2  
 ●ふわふわ ..... 4  
 ●あっちこっち ..... 6  
 ●このゆびとまれ・もぐもぐ ..... 7  
 ●etc ..... 8



# しつけと虐待について

新聞報道でもご承知の通り、虐待に関わる悲惨な事故は後を絶ちません。虐待については、ぴーちっこ25号で学園長の宮本がコラムで記しているのでここで多くは述べませんが、それにしても『虐待』という言葉が随分身近な物になった感があります。

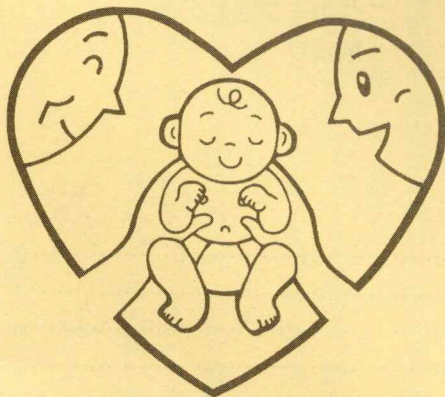
『虐待』は今始まったことなのでしょうか？ 虐待に関する記事を見るとほとんどの保護者が「子どもが言うことを聞かない。しつけのために」と体罰（暴力行為）を行ったり、「自分になつかないから」と体罰（暴力行為）に拍車がかかるケースが見えてきます。また、このようなケースは保護者に虐待をしている感覚がない、または認識していても認めないことが多いという特徴があります。こと、日本の場合、親権が非常に強いのが特徴であり、近所から児童相談所または警察に通報があってもなかなか動けない（身柄の確保が困難）という難しさが

あります。

つまり余程のこと（証拠）がない限り、親の「これは駄です。」が通ってしまふ。仮に強引に保護したとしても、裁判闘争になると圧倒的に不利になる場合が多くあります。それ故、被虐待児の保護が遅れてしまふ。上記のようなことより、虐待の事実を児童相談所が把握しながらも保護できず、（児童福祉法第28条 親権の剥奪の行使が行えず）最悪の結末となつてしまつた事件が、過去に何件もあります。我々職員もこのような報道を見ると非常に歯がゆく、無力感にさいなまれます。この社会問題にもなりつつある問題解決には、親の意識を変えるような教育、援助はもちろんのこと、はたまた法自体の改正すら必要なのでしょうか？

法改正の是非はさておき、躰と体罰の線引きは各々の考えによつて異なり、統一した見解は現在のところありません。

これが問題の一要因と考えられるのですが、では体罰とはいったいどのような行為をいうのでしょうか？ 体罰に対する定義を考える上でひとつの目安となるものに、法務省の体罰禁止通達の定義があげられます。この通達による、「体罰とは①身体に対する侵害を内容とする懲戒―殴る・蹴るの類―が該当することは言うまでもないが、②被罰者に肉体的苦痛を与えるような懲戒もまたこれに該当する。例えば端座、直立等指定の姿勢を長時間に渡つて保持させる、と言うような懲戒は体罰の一種と解せられなければならない」としています。





では躰はどうでしょう? 「躰」は家庭教育だと言われています。昔(例えば江戸や明治時代など・地域によって大きな差もありますが)は、父親(祖父)の言うことは絶対的なものがあり、働かなければ、人に迷惑をかけたらく、等各家庭により違いこそあれ、守らねばそれなりの制裁等、行われたことも少なくなかったでしょう。無論、子どもにとって親は絶対的肯定的対象として存在しており、その行為が正しいと感じたことでしょう。親は愛情があるから、子どもの将来を思っており、立派な大人にする為に、との言い分はありましたが、果たしてこれはどう位置づけしたらよいのでしょうか。「躰」なのか「体罰」なのか? 子どもにとつていい迷惑かもしれません。しかしそれが日常的、恒久的に行われていたとしたら、それが当り前の生活になってしまふことでしょう。

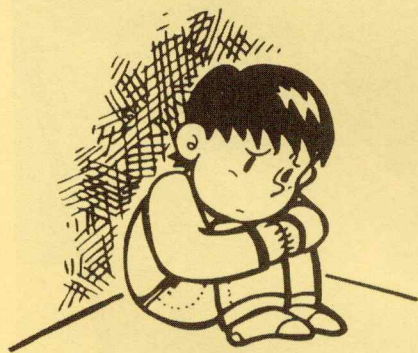
仕方がない、あなたのことを思つてはその時期の子どもにどのような感情を抱かせるのでしょうか? また成長し、成人してからこのような子は、我が子に対してどのように接するのでしょうか? 何となく答えが見えてきます。

各家庭には、それぞれの躰・教育(家庭教育)があります。子どもたちはその中で成長し、大人に(自立)なつていき

ます。最終目標(自立させること)は同じでも、その過程の中で虐待等を受けてしまう子どもが存在することはとても悲しいことです。

ぴーちっこをお読みになられている皆さん、現在クローズアップされ続けているこういう問題を真剣に考える時ではないでしょうか。

当然のことながら各児童養護施設でも体罰に対しては、その防止に力を入れて取り組んでいます。しかしながら施設職員としては余りに不本意な、また猛省を要する事件が起こっていることも事実です。ここで、東京都、そして各児童養護施設での取り組みについて簡単に説明したいと思えます。



我が国では、1989年国連総会で、児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)が採択されて以来、子どもたちに対する権利擁護の認識は年々高まりを見せています。東京都はサービス評価基準を策定し、各施設の処遇向上に努めています。また、児童養護施設においては、入所児童に対し「子どもの権利ノート」の配布が行われ、児童自身にも権利の自覚を促しています。さらに法的に見ても、児童福祉施設最低基準の第9条「懲戒の乱用禁止」についての項を新たに付加しています。

施設側より見ますと、研修会や学習会に参加するなどして自己啓発に努め、体罰はどこの施設(自分の施設)でも起こり得る可能性があることを認識し、それにかわる指導、つまり専門性の向上を目指しています。

家庭であろうと、施設であろうと子どもたちの幸せを願う気持ちに違いはありません。

虐待をなくすには、個々人の意識は勿論、地域の方々の温かい支援も不可欠なものと考えます。明日に羽ばたく子どもたちの明るい未来を願いつつ、ひとまずペンをおかせていただきます。

ぴーちっこ編集委員会

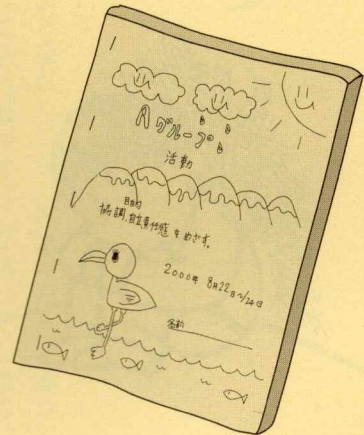


ふわ

ふわ

夏休み

## グループ活動に行ってきました！



Gグループ(2才〜6才) 7/19〜21

Gグループのすてきな仲間、幼稚園児7人、4歳児4人、職員6人で、あきる野市の森林村へ川遊びに行ってきました。

川遊びが目的で行ったこの活動の主役は「やまんば」。ロフトのあるコテージに入るなり、元気百倍！コテージ内を11人がまるで夏の運動会。元気があるのもOK！と思いつつながら、職員が冗談半分で「あんまり騒ぐとやまんばが来るよ」と言ったりとたん、全員ピタリと動きが止まり、表情が一変しました。

昼間は「やまんば」も忘れ、川遊び、魚とり、すいか割りを大いに楽しんでいたり子供たちも、コテージに戻り、夜

Aグループ(中1〜中3) 8/22〜24

本年も昨年と同様、長野県の野辺山でキャンプを行いました。子どもたちも全員が中学生になり、テント、タープの設営はもとより食事作りに至るまで、だんだん自主的に行動する姿が見られるようになり、「たくましくなったなあ」。オリエンテーリングでも(23キロの強行軍)、弱音はいっさい口にせず楽しそうに完歩。「すごいなあ」。(無論、職員はヒーハーヒーハー：だったことは言うまでもありません)

今回のキャンプでは、普段味わえないような体験(食事)をと子どもと考へ、羊腸を使つてのウインナー作り(スモーク・ポイル)、ジャンバラヤ、和風シシカバブ、カモ肉串焼き等、大

Fグループ(小1〜小3) 7/26〜28

昨年と同じく森のコテージに泊まりました。初日の朝は大雨の中を出発。一時はどうなることかと思いましたが、夕方には雨もあがり、活動前からみんなで勉強した「夏の虫」を探しに行くことができました。

二日目、川の上流で水遊びをした帰り、近くの施設のおじさんに呼び止められ、子ぎるがいる、と教えてもらいました。珍しいのでしばらく見て、さて帰ろうとすると、何とその猿が後をついてきてしまいました。まるで仲間とでも思っているかのよう、私たちが歩みを止めれば猿も止まり、また進むと後をついてきます。そんなこんなでコテージに到着。コテージは大変。放送が流れて、しばらく外に出ることができずに、食事作りも中でやることになってしまいました。でも、子どもたちは大喜び。「さる、また来いよ」「いないよ。どこ行っちゃったのかなあ」と窓を覗きながら、子ぎるの動きに一喜一憂。

コテージの方の話では、多分仲間から外されてはぐれてしまったのではないかと、とのこと。その猿は優しい子ぎるだったようです。思いがけないハプニングでしたが、子どもたちにとっては何よりも一番に残ったようでした。



て行かれちゃうよ」とビクビク…。楽しい楽しい夏の思い出は、「川遊び」より「やまんば」になってしまったかな…？



**Bグループ（高1〜高3）**

今年度より全員高校生となったBグループの子どもたち。

先日9/9は、女子児童4名で横浜に出掛け、横浜コスモワールドを見学。その後、中華街にて食事をし、楽しく、また様々な経験をしてみました。また10月には男子児童が趣味の「釣り」に磨きをかけるべく、夜釣り（もちろん徹夜）に挑戦する予定。今後も自身身の視野を広げ、生活に潤いを持たせるべく、充実した余暇活動の実施を目的とし、活動を展開していきたいと思えます。

切り楽しんできました。

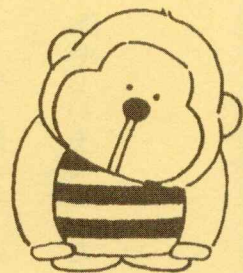
オリエンテーリングの昼食には前日に作ったウィンナーをパンにはさみ、牛乳パックに入れて河原で燃やし、アツアツのホットドックをパクつきました。前日のウィンナー作りに命をかけていた健くん。満面笑顔でうれしそう。しかし、直後「アツツ：あくあく」と、悲しそうな表情に大変身。…河原の砂の上にウィンナーが：ポテツと：もう言葉にはならないのですが、みんなは笑いをこらえるのに必死…。コラコラ、人の不幸を笑うものではない：と言いつつ思わず吹き出してしまったのは誰？ …ハイ、職員です！。



**Eグループ（小4〜小6） 8/25/4**

今年も奥多摩にある山のふるさと村に行ってきました。一日目は奥多摩についたとたん雨に見舞われてしまったので、予定を変更し日原鐘乳洞へ。ひんやりと寒い洞内で、神秘的な様子が印象に残りました。二日目は三頭山ハイキング。パンフレットには健脚コースとあったのですが、子どもたちは本当に体力がついていて、全く問題なし。疲労したのはやはり職員の方でした。三日目は陶芸と石細工に分かれ、それぞれの教室で先生に教えてもらいながら作りました。このときみんなの目はキラキラ輝きよい表情。とても良い体験になったようです。その他にも食事作りをしたり、肝試しをしたり等々。盛り沢山の内容に満足してくれました。

Eグループは男女の仲がとても良く、いつも良い雰囲気です。これでもうちよつとけじめがつかうればいいんだけどな…。これは今後に期待したいと思えます。



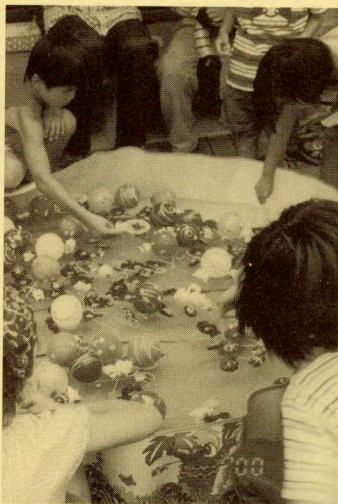


あっち  
ちっち  
ちっち

こどもたちの行動範囲を、こどもたちの視点で照会するコーナーです。今回は縁日を紹介します。

8月6日、先生が「縁日に行こう！」って言うのであわててお靴はいたけど、縁日ってなあに？

お姉ちゃんに、「焼きそばとかヨーヨーとかももらえるよ。毎年、行ってるんだよ」と聞いて、これは行かなきゃ損、あせって追いかけた拍子に転んじゃった。



大泣きして、出かける前から疲れちゃいました。

松山通り商店街を歩いてパサージユへ、何だか人がいっぱい居て、まあるくなつてみーんなこっちにお尻向けて、何してるの？

「こわい！ こわい！」って、いったら先生が抱っこして見せてくれた。

すごいんだよ。だって、プールに風船がいっぱい、ヨイヨイっていうんだって。(ヨーヨーでしょ) お姉ちゃんに釣つてもらって、遊び方教えてもらった。チヨウるさいおもちゃだった。

かき氷食べて、輪投げして……。

楽しかったのはクジ。おっきい人形が当たっちゃった。本当はパサージユの時計が欲しかったのに、ダメだったよ。

夕方は、ゆうやけ市へ行っちゃったよ。今度は泣かなかった。

お兄ちゃんがじゃんけんゲームでコンニャクいっぱい持って帰って、先生に笑われていたよ。

それから、保育園の人が太鼓たたいていたけど上手だったねー。学園の先生も、お腹の太鼓上手なんだよ。



出かける前に、みんな縁日券をわけてもらいました。この券は、商店街の方に、毎年いただいているんだって、ほんとにありがとうございました。

焼きトウモロコシや焼き鳥、とってもおいしかったです。

縁日って、おいしいもんだったんですね。



# このかびとまれ

— 26号のアンケートより皆様の声を紹介します —

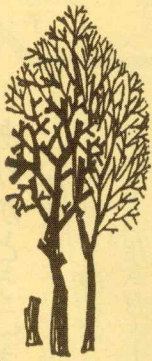
★ぴーちっこを中野社協で手に入れました。天皇皇后陛下のおひとがらがにじみ出る様なそれぞれの文章に心打たれました。雲の上の人という思いから、3人の子育てをなさった父親、母親の姿がうかがえて新鮮でした。また大人が緊張しているのに子どもたちはいつも通り。そう！子どもは皆同じ。皮膚の色も国も言葉も身分も大人が「差」を感じるもので子どもは何ももっていない。無垢のまま。今初めて気がつきました。無垢の垢という字は皇后の後の字が入っているんですね。漢字の成り立ちにうといので難しいことはわかりませんが、面白いと思いました。……とりとめもなく書きましたが次の号を楽しみにしております。(Iさん)

☆テレビドラマで児童養護施設がとりあげられています。虐待シーンがでてくるたび「聖友学園」の温かい雰囲気を感じて、虐待軌道修正しています。そして今回の「天皇皇后陛下のご訪問」では以前にも増して「聖友学園」の良さを実感しました。いつまでも温かい学園でありますよう影ながら応援していきたいと思いません。(Hさん)

★素晴らしい特集を拝見しました。みなさんの日々のご苦労がうかがわれ、とてもうれしく思いました。今、引越して遠くなつてしまいましたが子どもたちが健やかに幸せに暮らせる事を祈っています。これからもがんばって下さい。(Nさん)

☆ある日北側の窓を開けていたところ雨が降り込んで、廊下がぬれてしまいました。それに気がついて、  
 自発的に一生懸命拭く姿をみて、  
 えらいなあと思いました。

(学習指導中の子どもの一場面から……Tさん)



いよいよ食欲の秋がやってまいりました。  
 香りをしっかりとじこめたホイル焼で、魚や野菜を  
 もりもり食べましょう。



## さかなのホイル焼き

**材 料** 白身の魚、キャベツ、にんじん、もやし、ピーマン、しめじ等、好きな野菜やきのこ。コーン、ベーコン、チーズ、塩、こしょう、油。

- 作り方**
- ①魚は塩こしょうしておく。
  - ②アルミホイルにうすく油をぬり、その上に魚、野菜、きのこ、コーンをたっぷりのせ、最後にベーコン、チーズをのせて、きっちり包む。
  - ③230～250℃のオーブンで10～15分位焼く。

ベーコンやチーズが入るので、魚の苦手な子どもでも食べやすい様です。熱々をおためし下さい。！



「ぴーちっこ」は、今を生きる子どもたちについて皆様と話し合う広場です。

日頃子どもと接する中でふと気づいたこと、感じたこと、又お悩みになっっていることなど、身近な話題や情報をお気軽に聞かせ下さい。お待ちしております。

「ぴーちっこ」は年3回発行しておりますが、ご希望の方には毎回ご送付させていただきます。送料等無料です。ご住所・ご氏名・電話番号をご連絡下さい。

「ぴーちっこ」の内容に関するお問い合わせ、寄稿のあて先等は下記のとおりです。

〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19

聖友学園ぴーちっこ係

電話 03(33338) 1844

FAX 03(33338) 1894

### ありがとうございました。

次の皆様よりご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成十二年六月〜九月。敬称略)

#### 〈寄付金〉

(助) 東京青少年文化協会、田澤茂、田中文雄、東和開発(株)、高橋医院、市村歯科医院、松山通り交友会、三井精肉店、富実屋、小松屋豆腐店、越前屋米店、広瀬青物店、遠藤果実店、五十嵐青果店、魚音、西島畜産、道原商店、渡辺文具店、杉山高一、野村栄子

#### 〈寄付物品〉

毎日新聞社出版局「次世代の君へ」事務局、東京都食肉環境衛生同業組合、斉藤啓子、アメリカン・エキスプレス銀行在日代表テイト・アスカート、(株)オカダヤ、外村公明、国分グローサーズチェーン(株)コミュニティ基金事務局、李銘輝、スターロード商店会、杉山高一、日本出版販売労働組合

#### 〈ハースデーフレンド〉

尾島陽子、大沢芳子、丸翠、小出邦子、中村範子、森真理子、宮秋智子、野村栄子、神崎早苗、高山千賀子、松沢勝子、秋庭英子、福山はつ子、阿部朱実、角田馨、中島省吾、渡辺幸男、善塔和子

#### 〈招待〉

東京読売巨人軍長嶋茂雄(野球観戦)、Jリーグ選手協会渡井基之(Jリーグ観戦)、(株)ポリシヨイサーカス営業部(サーカス)、(株)ユース・プランニング、NFLジャパンリンク(ダラスカウボーイズ・チャリダズパフォーマンス、アメリカンフットボール観戦)、若乃花後援会(断髮式)

### 編集後記

夏休みも終わり、子どもたちもそれぞれ色々な思い出をむねに2学期を迎えました。まだ夏休み気分のぬけない子どももいますが、これから待っている運動会や発表会に向けてがんばってほしいと願っています。

前回の26号は天皇・皇后陛下の御視察がありその様子など乳児院と協力し特別号を出すことができました。

これからも学園の色々なことを皆様知っていたく為がんばっていきますのでぴーちっこをよろしくお願い致します。

